

## 令和5年度 島根県技術士会 新年例会 フォトレポート

島根県技術士会 広報部

島根県技術士会では、年1回、本会に所属する技術士が日頃の研究の成果を発表する新年例会を開催しています。

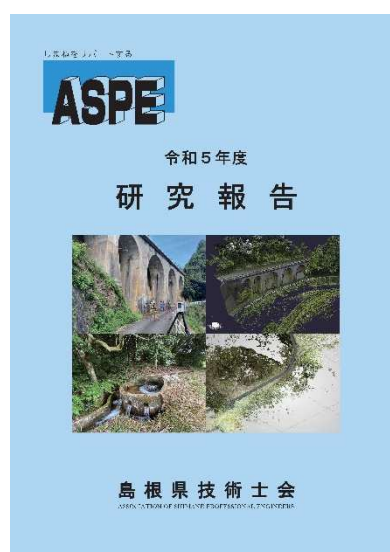
本年度は、令和6年1月27日（土）、ニューウェルシティ出雲におきまして、125名（会場参加 84名、Web参加 41名）の会員が出席し、ハイブリッド方式で開催いたしました。

本年度は7つの分科会と個人の研究報告および令和6年1月1日に発生した能登半島地震についての考察がありました。

毎年発行しています「研究報告」は島根県内の主要な図書館、国立国会図書館にも寄贈されていますので是非ご覧ください。



石田会長挨拶



### 1. 水資源・水環境研究分科会

#### ○温井ダム視察報告 西田修三

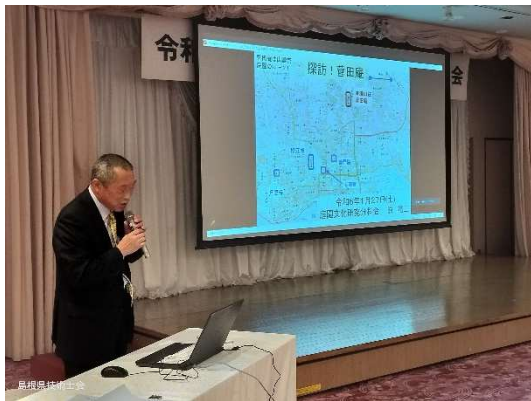
温井ダムは、広島県の太田川上流にある国土交通省所管の多目的アーチ式コンクリートダムで、ダム高は黒部ダムについて全国2位である。温井ダムの建設にあたっては、難易度の高い設計法、施工法が用いられている。

発表では、概要の紹介と、温井ダム資料館の充実した展示物の豊富さ、地山の中をエレベータで降りる見学ルートの興味深さ及びダム本体を視察した報告がありました。



## 2. 庭園文化研究分科会

○探訪！菅田庵 原 裕二



出雲流庭園のルーツは、松江市菅田町の有澤山荘菅田庵にあると考えている。そのような中、今年度の分科会では御当主にじっくりと案内していただく機会があった。今まで知らなかった興味深い内容が多く、大変有意義な時間を過ごすことができた。

報告では、菅田庵の紹介を行いつつ、その折に感じた疑問や考察について発表がありました。

## 3. 鉄道遺構研究分科会

○14年目の活動 ～広がるネットワーク～

和田 浩

○旧三江線を踏査して ～橋梁 50 年の変遷～

岸根真志

令和5年度は、「第4回全国未成線・廃線サミット in 高千穂」への参加、今福線の「手づくり郷土賞」受賞、鉄道史研究の第一人者である小野田滋氏との旧三江線の現地調査等、多様な活動を通して、多くの方々と知り合うことができた。旧三江線は大正15年に工事着手し、昭和50年に全線が開業した。この鉄道路線に架かる橋梁は、建設工事の中断をはさみながら約50年にわたって架橋された。

発表では、本分科会の14年目の活動と、旧三江線に架かる橋梁の変遷とその特徴について報告がありました。



## 4. 生物多様性研究分科会

○コウノトリ 令和5年度の活動報告 ～原点回帰～

大嶋辰也

○島根半島・宍道湖中海ジオパークの魅力 ～生物多様性からのアプローチ～ 北村 清

平成28年度にコウノトリに着目して豊岡市を視察して以降、雲南市を中心に餌資源量調査などに取り組んできた。今年度は改めて豊岡市を視察し、これまでの活動を振り返り、今後の取り組みについて考えてみた。また、昨年度から着手した島根半島企画（ジオパーク）については、自然観察会を企画し、現地で実際に活動している方との意見交換を行ったことなどの報告がありました。



## 5. 島根県B級遺産研究分科会

### ○島根県B級遺産研究分科会 令和5年度活動報告

本年度は、「浜田橋（木コンクリート橋）」の最後の調査として、島根県コンクリート診断士会の協力を得て実施した床版鉄筋の配置状況とコンクリート強度に関する報告、「矢田サイフォン」に関しては円筒分土工の3次元モデルを用いた構造の報告がありました。

松浦寛司



## 6. エネルギー多様性研究分科会

### ○メタンハイドレートについて 井上数夫



今年度は、メタンハイドレートに関する知見を得るための活動として、東京海洋大学の青山千春特任准教授（メタンハイドレート研究の第一人者）を往訪し、同氏の研究内容やメタンハイドレートの研究開発の動向について意見交換され、今後の展望についての発表がありました。

## 7. DX研究分科会

### ○DX研究分科会初年度活動報告 三好恵美

### ○今福線の3次元点群データ取得とデータ活用方策の提案 藤原宏志

国土交通省のBIM/CIM原則適用を背景に、我々島根県内の公共事業に携わる技術者として、インフラ分野のDXに取り組むするうえでの課題解決や基礎知識の普及を目的として、今年度発足した「DX研究分科会」の活動内容について、①「BIM/CIMの基礎知識取得」、

②「他研究分科会とコラボして3Dモデル作成」の2つの柱で実施した内容の紹介がありました。

また、鉄道遺構研究分科会とのコラボ事例として、今福線の鉄道遺構の現地計測と図化を行う上での参考資料とするための遺構施設の3次元点群データ取得とデータの活用方策に関する提案を行い、DX研究分科会との連携の可能性を検討した発表がありました。



## 8. 研究報告（個人研究）の発表

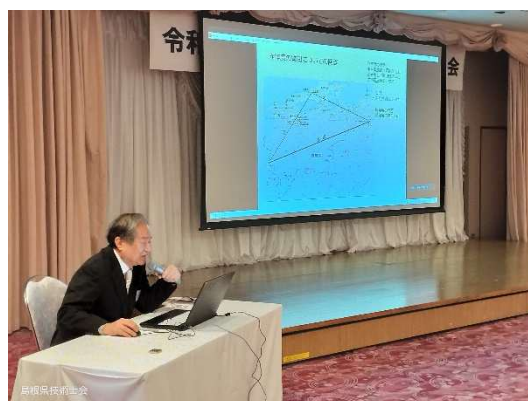
○すでに起こった未来 人口減少と農業・農村整備 堀尾俊弘



島根県の人口減少の構造は確実に進行する「すでに起こった未来」であり、その減少の程度が急激であるため、今後様々な分野で大きなパラダイムシフトが起きると予想される。農業・農村整備に関連付けた発表がありました。

○古代の韓半島のみちを探る：釜山～ソウルまでの交通路 吉田 薫

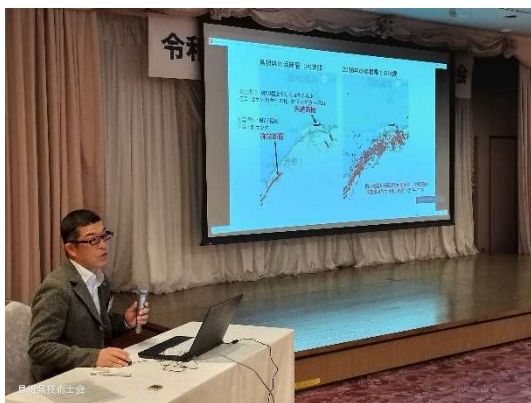
多くの遺跡や遺物の分布からも分かるように、弥生時代には確実に日本と韓国の往来があった。2016年度の研究報告で「スサノオの来たみちを探る―出雲～韓国の景観と航路―」と題して出雲から釜山までの道のりを示した。これを引き継ぐもので、釜山～ソウル（帯方郡があったとされる）間の交通路を探索された発表がありました。



## 9. 能登半島地震【緊急報告】

### ○地震前の微小地震の傾向と降雨について

畑 和宏



「微小地震」を「震度1以下、震源の深さが20kmより浅い地震」と定義し、今回の能登半島地震についても、微小地震という視点で気象庁のデータからの考察及び、地震前の降雨量に着目し、被害（斜面崩壊・盛土崩壊の多発、市街地における液状化）の拡大につながったのではないかとの考察についての発表がありました。

## 10. 日本技術士会中国本部報告ほか

### 渡部 修、田中秀典

日本技術士会の動向（試験制度の見直し、現在の文部科学省の取り組み状況）、昨年末松江市で主催された中国本部島根例会「第7回中国本部技術士研究・業績発表会」の報告、定期的に行われている講演会の参加案内がありました。



以上